

2016 年度

中国留学報告書

留学先：北京師範大学

留学期間：2016年8月29日（月）

～2017年1月7日（土）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21015105
廣田 夏帆

目次

1	留学先及び実習期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	当初の目的・目標への達成度	6
6	反省・課題	7
	謝辞	7

付録

	留学日誌	8
--	------	---

1 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

留学期間：平成 28 年 8 月 29 日（月）～平成 29 年 1 月 7 日（土）

※帰国は 1 月 7 日（土）

2 留学先概要

(1)大学について

北京師範大学は、中国の首都北京に位置している。中国政府に指定された重点大学の一つであり、15 の学院、12 の学部、12 の学術研究所を持つ総合大学である。現在、4 年の学部生 7,000 人、大学院生 5,000 人、留学生 1,000 人が在学している。国際交流の面において、イギリス・アメリカ・ロシア・ドイツ・日本・韓国・シンガポールなどの国と大学間の交流を行っている。

(2)大学で行われている教育について

北京師範大学は、言語教育のレベルが非常に高いことと、世界各国から多くの留学生を受け入れていることに特徴がある。クラスは、事前に行ったテストによって中国語の習得レベル別に分けられ、自分に合った難易度の授業を受けることができる。今年、国情の学生が在籍したクラスは、中国語初級レベルに近い 101 クラスである。（初級者【100】から上級者【301】まで 5 段階にレベル分けされている。）

3 研修目的

今回の研修の目的は、中国語を用いた会話の習得と中国文化の体験である。1 年生後期から学習を始めた中国語をより理解するためには、大学の授業内で触れることのできない中国語のみを使ったやりとりが必要である。中国人またはその他の外国人が話す中国語を聞き取り、中国語でそれに答えるという日本語に頼ることない環境に身を置くことで、中国語をより理解することができる。今回の研修では、これまで学んできたことに加え、語彙を増やし、中国語ならではの表現を学び、HSK や中国語検定のような試験に挑戦できるレベルまで中国語の能力を向上させていきたい。

北京師範大学日本語学科の皆さんとの交流会では、中国語を用いて出し物を披露し、互いの国の言語を学びあっていることを活かして交流していきたい。留学中、国情の学生が在籍するのは留学生クラスであるため、欧米や他のアジアの国々の学生と関わる機会に比べ、中国人の学生と交流する機会が少ない。よって、交流会は中国人の友人、互いに自国の言語を教え合う“言語パートナー”を見つけるために重要なものである。

また、北京師範大学では国情の学生のために開設されている授業があるので、言語以外にもこれらの授業への取り組むことや積極的に北京市内を散策することで、中国の文化につ

いて多くのことを学びたい。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日 (曜日)	午前	午後
8	29 (月)		到着、入寮
	30 (火)	新入生登録	
	31 (水)		
9	1 (木)	Wi-Fi 使用可	新入生クラス分けテスト (口頭・筆記)
	2 (金)	入学式	
	3 (土)		クラス分け発表
	4 (日)	テキスト購入	
	5 (月)	授業開始	
	9 (金)		日本語学科の学生と交流会
	15 (木) ~18 (日)	中秋節 (休暇)	
10	1 (土) ~10 (月)	国慶節 (休暇)	
11	3 (水)	中間テスト	
	4 (木)	中間テスト	
	5 (土) ~10 (木)	修学旅行 (希望制)	
	12 (土)	北京の夜 予選	
	13 (日)	留学生文化交流節	
12	18 (日)		北京の夜
	29 (木)	期末テスト	
	30 (金)	期末テスト	
1	7 (土)	帰国	

4 - 2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i)新入生登録

留学生事務室にてパスポート等重要書類を提出後、学生証・学生カード（学内での買い物、図書館の入館等に用いる）を受け取る。また、学内での規則や注意事項が記載された便覧ももらう。

ii)Wi-Fi 使用可

8月末にWi-Fi利用料金を支払い、9月1日から大学の敷地内でのみ携帯電話、パソコンでのWi-Fiの使用が可能になる。使用するギガ数によって料金が4段階に分けられており、最初の1か月以降は自分で使用するギガ数・料金を選択できる。（最初の1か月は、60円でギガ数無制限というプランを利用する。）

iii)新入生クラス分けテスト

事前に指定された教室棟でテストを受ける。テストは筆記・リスニングを受けた後、移動して口頭テストを受ける。

iv)クラス分け発表

テストの結果によってクラスが決まる。（国情の学生は例年全員が同じレベルのクラスに在籍する。）クラスと同時に時間割、班主任（クラスの担任）も発表される。

v)テキスト購入

言語科目3つ分のテキストの他に、国際情報大学の学生にのみ開講されている文化科目が3つあるため、それらのテキストも購入する。

vi)日本語学科の学生と交流会

北京師範大学日本語学科の学生と、事前に準備した出し物を披露したり、自己紹介、連絡先の交換等をしたりする。彼らは日本語を学んでいるため、積極的に日本語を使って会話してくれる。自己紹介で言いたいこと、紹介したい日本の文化等を事前に中国語に訳してまとめておくところからも積極的に話すことが出来る。

vii)中秋節

中国の節句の一つで、3日前後授業が休みになる。月を鑑賞したり月餅を食べたりする習慣がある。

viii) 国慶節

中国の建国記念日。1週間ほど授業が休みになる。この休暇を利用して北京市外へ旅行に行ったり、市内を観光したりすると良い。

ix) 中間テスト・期末テスト

授業がなく、テストのみが行われるのは実質2日間だが、これらの前に文化科目のテストや筆記以外のテストが行われる。また、テストが実施される教室棟は普段留学生の授業が行われている教室棟と違うため、授業中に説明されるテストの時間と場所をよく聞いておかなければならない。

x) 修学旅行（希望制）

事前に留学生クラスで希望をとり、テスト前に説明会が行われる。昨年度の行き先は四川省、今年度の行き先は河南省と、毎年行き先が同じとは限らないため費用も年度によって変わると思われる。北京師範大学側から補助金が出され、今年度は交通費、食費、宿泊費等を合わせて500円で5泊6日の修学旅行に参加することができた。観光する間、クラスメートと会話したり、一緒に食事をしたりと、同じ教室で授業を受けている時間とは違う時間を過ごせるので、参加したクラスメートと親しくなる良い機会である。

xi) 留学生文化交流節

主楼（メインビルディング）で各国の留学生が出店を出したり、パフォーマンスを披露したりする行事。

xii) 北京の夜

留学生同士が自国の踊りや歌等の文化を披露し合う行事。事前に予選が行われ、大学外からの来賓も出席するなど非常に規模が大きい。体育館で行われる。今年度は、国情からの留学生はほとんどパフォーマンスを披露する側として参加したが、留学生事務室で学生証を提示すればチケットがもらえるため、観客として参加しても十分に楽しめる行事である。

5 当初の目的・目標への達成度

今回の研修の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 中国語の語彙を増やすこと

中国語による日常会話を4か月間続けることにより、会話において実用的なセンテンスを学ぶことができた。また、授業内でプレゼンを行う際、留学生同士で会話をする際に多くの名詞を使用する。使い慣れた日本語の名詞が中国語ではどのように表記されるのかを日々調べ、実際に使ってみることで語彙力が大いに向上した。検定試験については、この報告書

を執筆している時点で、帰国してから HSK、中国語検定を受験できていないため、記述を差し控える。

ii) 言語パートナーについて

9月に行われた日本語学科の中国人学生との交流会で連絡先を交換した3年生の方に、言語パートナーとして留学中に中国語を教えてもらうことができた。日常の中で分からない表現や、どのように受け答えをすれば会話をスムーズにできるかなど、教科書や授業内の会話ではなかなか理解できない部分についてアドバイスをもらった。彼女は日本語を専攻して3年目であるため、学んでいる言語の習得度は彼女の方が高い。しかし、彼女の論文の添削や試験問題の解説を何度か頼まれたので、微力ながらパートナーとして彼女の学習に貢献できた。

iii) 異文化を理解すること

日中文化交流の授業では日中の歴史的な関わりと表現の違いを学ぶことができ、看報の授業では中国で起こったことを中国語表記の新聞から見て、自分の考えを述べることができた。また、地下鉄やバスを利用して北京のさまざまな場所へ行き、食をはじめとした多くの中国文化に触れることができた。

6 反省・課題

常に中国語での会話を心がけてはいたが、日本語が話せる先生や日本語学科の学生の皆さんに甘えている部分があった。また、個人的には修学旅行後からクラスメートと打ち解けた所感があった。もっと積極的に話し、もっと早い時期から交流を深めておくべきであったと感じる。

留学生活によって語彙が増え、中国語を用いて実際に会話をしたことによって、習得への意欲が高まった。今後は、この経験を経験だけにとどめておくことのないよう、検定試験等で結果を残すことを課題としていきたい。

謝辞

今回、北京師範大学漢語文化学院にて、寮、大学内での手続きの説明とその際の通訳をしてくださり、その他留学生活の多くの面で支えてくださった何玲玲さん、中国語の学習、留学準備の際にお世話になった佐藤若菜先生、區建英先生、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、私たち国際情報大学の学生との交流会を設けてくださった北京師範大学日本語学科の有志の皆様、日本人留学生団体である日本人会の皆様にも心より感謝いたします。最後に、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、中国への留学が実現し、貴重な体験ができたことを、心から感謝いたします。

付録：研修日誌

8月29日 月曜日 午前
出発 6000 新潟駅
担当 佐藤若菜先生
内容 ・新潟駅に集合 ・成田空港までジャンボタクシーで移動後、佐藤先生と合流 ・成田空港から北京まで飛行機で移動 ・北京首都国際空港で入国審査 ・空港から北京師範大学までバスで移動

移動の所感

飛行機に乗っている時間は約4時間だが、新潟駅から成田空港までのバスによる移動時間が約6時間と、バスへの乗車時間の方が長い。また、北京首都国際空港から北京師範大学までの道のりも、渋滞の影響もあり1時間ほどかかった。早朝に出発し、大学に到着したのが深夜11時頃だったので非常に疲れた。

8月29日 月曜日 午後（到着後）
担当 佐藤若菜先生
入寮
内容 ・氏名等を書類に記入する ・デポジット（押金）として100円支払う

備考

ルームメイトは実際に寮に行ってから決まる。（外国人か日本人か事前に希望を出すか、入寮している学生の状況によって実現しない場合もある。）

デポジットは、部屋の家具や壁などを汚したり、壊したりしなければ退寮時に全額返金される。学生用控えが渡されるので留学期間中に失くさないよう保管しておく。

8月30日 火曜日 午前
新入生登録
担当 佐藤若菜先生 何玲玲さん（副班主任）

内容

- ・留学生事務室へ行く
- ・登録のための書類に氏名等を記入
- ・パスポート、海外旅行傷害保険証など重要書類を提出
- ・学生証・学生カード（学内での買い物、図書館の入館等に用いる）を受け取る。
- ・学内での規則や注意事項が記載された便覧、師範大の T シャツ等をもらう。

備考

便覧は、中国語、英語、韓国語、日本語の 4 つの言語で書かれており、大まかな行事予定について、単位について、Wi-Fi についてなどが載っている。目を通し、不明なことやすぐに手続きが必要なことなどがあれば、すぐに先生や副班主任に確認する。

9 月 1 日 木曜日 午後

新入生クラス分けテスト

内容

- ・教二楼へ行く
- ・指定された教室で筆記テスト、リスニングテストを受ける
- ・別教室へ移動して口頭テストを受ける

テストの内容および所感

テストの内容は、HSK（汉语水平考試の略）の形式で行う。中国語と英語でテストの説明をされる。留学までの間に中国語の検定試験を受けたことがなかったため、戸惑いながらテストを受けた。口頭テストは、名前を述べていくつかの質問に答えるという短時間で終わるものだった。

9 月 5 日 月曜日 午前

授業開始 8000

班主任（クラス担任）名 徐彩華

授業内容

- ・言語科目（会話、リーディング、リスニング）週に 3 回ずつ
- ・文化科目（新聞、日中文化交流、太極拳）週に 1 回ずつ
- ・授業数は 1 日平均 2~3 コマ

授業内容の詳細および所感

言語科目

◎会話

パワーポイントを使用し、自ら決めたテーマ・単元に沿ったテーマについて中国語でプレゼンを行う。また、対話形式の教科書を読んだり、文法を学んだりする。

◎リーディング

教科書内の単語、文法の使い方を学ぶ。

◎リスニング

中国語の音声を聞きとってシャドーイングを行ったり、問題を解いたりする。

文化科目

◎新聞

中国語の新聞を読み、単語を学んだり、自分の考えをまとめたりする。

◎日中文化交流

日中の歴史に関わった人物について学んだり、日本語の文を中国に翻訳したりする。

◎太極拳

大学内の広場で太極拳の動きを学んだり、体を動かしたりする。

授業は、45分+10分休憩+45分を1コマとしている。

最初の1か月は先生の説明も満足に聞きとることができなかったが、先生は理解できていない学生がいないか常に気を配って丁寧に教えてくれる。また、席は特に決まっていなくて毎日自分の好きな場所に座ることができる。これを利用してさまざまなクラスメートと話してみるとよい。

言語科目は、予習と復習を短時間でいいので毎日の方がよい。単語の意味を確認したり、一度声に出して教科書を読んだり、CDで音声を一度聞いたりすれば授業を受ける際に気持ちに余裕が持てる。

授業中は、先生が生徒に順番に質問したり回答させたりする形式がほとんどである。先生に指名されていなくとも、他の外国人留学生は積極的に発言している。とにかく書くことより話すことが重要視されているので、多少間違ってもめげずにたくさん話していきたい。

9月9日 金曜日 午後
日本語学科の学生との交流会
担当者名 何 玲玲
内容 ・メインビルディング内の教室へ移動

- ・日本語学科の学生たちと 7~8 人ずつテーブルにつく
- ・お菓子を食べながら自己紹介、雑談
- ・出し物披露
- ・連絡先交換
- ・椅子、テーブル、ゴミを片付けて解散

所感

北京師範大学日本語学科の 2、3 年生 30 人ほどが交流会に参加してくれた。3 年生はかなり流ちょうに日本語を話すことが出来る。彼らは日本語だけでなく日本のアニメなどの文化にも興味を示し、気さくに話してくれた。

留学前の事前研修の中で準備していった出し物（クイズ、歌）は互いに打ち解け、交流会を盛り上げるのに大いに役立った。日本語学科の学生たちもダンスや歌を披露してくれた。

会ったばかりの人と連絡先を交換するのには勇気がいるが、この交流会をきっかけに中国人の友人をつくったことが留学生生活を豊かにしてくれた。

11 月 5 日 土曜日 午後 ~ 11 月 10 日 木曜日 午後
修学旅行 行き先：河南省
班主任名 徐 彩華
旅行日程 1 日目 寝台列車で移動 2 日目 少林寺見学 3 日目 小・中学校訪問 伝統芸能鑑賞 4 日目 バーベキュー 5 日目 開封府見学 6 日目 中国文字博物館見学 新幹線で大学へ帰る

旅行の詳細および所感

修学旅行は、クラスで参加するかどうか希望をとる。希望者は事前に乗車するバスの号車ごとに説明会に参加し、旅行費用を払う。行き先は毎年変わる。

今回は寝台列車に乗り、河南省まで行った。5 泊 6 日と、日本での修学旅行よりも期間が長い。引率の先生、ガイドをしてくれる院生数人、クラス混合の留学生を合わせた約 40 人でバスに乗り、日程のほとんどを彼らと過ごした。食事は基本的に全てビュッフェ形式だった。観光地、劇場、小中学校などさまざまな場所を訪問した。

移動には寝台列車、バス、新幹線を利用した。普段バス、地下鉄、タクシーを利用することが多いため、寝台列車や新幹線に乗ることができるのも貴重な体験の一つであ

る。

12月18日 日曜日 午後
北京の夜 1900-2100 北京師範大学体育館
行事内容 ・留学生が国ごとに自国の踊りや歌などを披露する ・観客は事前にチケットを留学生事務室でもらう

行事の詳細および所感

この行事は、事前に予選が行われたり大学外から来賓が出席したりと、非常に規模の大きな文化行事である。体育館に特設ステージが設置され、出演者が大学外から家族や友人を観客として招くこともできる。

今年の北京の夜には日本、韓国をはじめとした 20 前後の団体が参加した。パフォーマンスの内容は伝統芸能から現代的なものまで団体によってさまざまであった。各国の個性溢れるパフォーマンスを見ることができるので、異文化交流の一環として、とても興味深い行事であった。

今年の国情の学生は、日本人会の一員として沖縄の伝統的な舞踊であるエイサーを披露した。10 月初旬から約 2 か月間の練習を経て北京の夜に参加した。留學生活の半分の期間、生活の一部として北京の夜の練習があったため、最も印象深い出来事の一つといえる。

1月7日 土曜日 午前
帰国 4000
・朝 4 時に寮のロビーに集合 ・部屋の点検を寮の管理人にしてもらう ・ルームキーを返却し、入寮時に払ったデポジットを返金してもらう ・バスで北京首都国際空港へ ・北京から成田空港まで飛行機で移動 ・成田空港で入国審査、荷物の検疫を受ける ・成田空港から新潟駅までジャンボタクシーで移動 ・新潟駅で解散

移動の所感

日本から出国する際には佐藤先生に引率していただいたが、帰国は学生のみで手続き、移動をしなければならないので、団長を中心にまとまって行動する必要がある。パ

スポーツや航空券などの北京からの出国に必要な重要書類はすぐに取り出せるように持っておく。

荷物を運搬する場合、重量制限があることに注意したい。日本へ持って帰りたいものを優先的にまとめ、捨てるものや人に譲ったり売ったりするものは早めに整理しておくことが望ましい。

また、帰国当日の動きや集合場所、時間などは事前に話し合っておくとよい。全員が帰国の手順を理解していたおかげで大きなトラブルなく帰国することが出来た。